



ひきち まこと 町長
(ファシリテーター)

農業のいま

町長 震災の時の状況と農業を再スタートした時の思いを聞かせてください。

渋谷 はしごの上でリンゴのせん定をしていた時で、この世の終わりのかと思いま



東京国際フォーラムでの「町イチ!村イチ!」でPR

した。その年のモモは1箱100円でした。衝撃だったのはモモが捨てられるということでした。国見サーブスエリアのゴミ箱にモモが捨てられていたという話も聞きました。秋にはあんぼ柿の生産が中止に。あんぼ柿農家は、東京電力の賠償用に捨てた柿を山積みにして、日付とキ口数を書いて撮影しなければならなかった。あの時は悲しかった。

町長 国見町は原発事故の影響で2年間あんぼ柿は作れませんでした。あんぼ柿農家でもある阿部さんはどうですか。価格は戻りましたか。



岐阜県池田町の「みの池田ふるさと祭」で町の特産品を紹介

阿部 加工自粛の2年間で、山梨や長野の干し柿農家が干し柿の生産量を増やしました。今その影響で価格競争になっていたり、風評被害もあったりで、震災前の価格よりもまだまだ低いです。生産量は100パーセントに回復しましたが、価格は70パーセントくらいです。

町長 阿部さんは、震災のあった年に農業を始めました。原発事故もあったのに、迷いはありませんでしたか。



さとう けいすけ 圭将さん

国見小学校6年生の時に国見ジュニア応援団で活動(平成30年度団員)。現在は県北中学校2年生で、バスケットボール部に所属。

でした。こんなことをしないと国見ではモモもリンゴも作れないのかな、と思いながら高圧洗浄機を操作していました。

町長 洗浄の時、国見町は水道課が管理している井戸の水を利用してもらいました。洗浄作業が始まってし



阿部 逆にそれがきっかけになりました。もう少し修行してからとも考えていたんですが、早く農家として国見のおいしい果物をみんなに届けたいと思いました。

町長 平成23年の冬から翌年の春先にかけて、果樹についた放射能を取るために、果樹を一本一本水で洗う洗浄作業がありました。渋谷さんも作業をしましたか。

渋谷 作業しました。一年の中で一番寒い時期に、鼻水が凍るような中での作業



にしき はな 花菜さん

県北中学校1年生の時に国見ジュニア応援団で活動(平成28年度団員)。現在は福島高校2年生。卓球部に所属し、県大会へ出場している。

佐藤(惺) ニセコ町にPRで行ったときに毎年買っている人がいてうれしくなりました。

札幌の市場に行ったときには山形のモモは残っていて、福島のモモは完売だと聞いて感激しました。

鈴木 ニセコ町でPR販売した時に、小さい子が試食のモモがよほどおいしかったのか、買ったモモをどうしてもその場で食べたいと

佐藤(惺) 自分の町のこと、が今までよりもっと知ることができたことです。それと、どこに行ってもみんなが笑顔で対応してくれて、友だちの輪が広がったことです。

佐藤(圭) 国見町の魅力にあらためて気づけたり、他の地域の人の温かさや優しさに触れたりできたことです。

泣き出して。お父さんに皮をむいてもらって、食べさせてもらったときのその子のとても幸せそうな笑顔が忘れられません。とても感激しました。

町長 ジュニア応援団の活動で、やってよかったと思うことはありましたか?

ジュニア応援団のいま

町長 ジュニア応援団の活動の中で一番印象に残っている活動はなんですか?

佐藤(圭) モモづくりの難しさや大切さを痛感しました。



くろだ みおる 穰さん

リンゴを中心にモモなどの果樹を栽培。大学卒業後実家の農業を手伝い、「葉とらずリンゴ」に取り組み、おいしさを探求。

